

令和 7 年度中山間農業研究所試験研究成果検討会発表課題一覧

1. 13:40～14:00 主任研究員 矢島隼人

【課題名】夏秋トマト品種「麗月」の摘花房による夏季の出荷抑制と秋季の増収効果

夏秋トマト品種「麗月」は多収で秀品率が高く、近年の収量向上の一役を担っている。一方で従来品種と同様に 8 月を中心として出荷が集中し、栽培面及び販売面で課題となっている。そこで、開花時の摘花房による夏季出荷量の抑制効果と販売単価の高い秋季の生育・収量に与える影響について検討したので報告する。

2. 14:00～14:20 研究員 山腰美帆

【課題名】有機農業の推進に向けた夏秋トマト栽培における有機肥料の検討

夏秋トマトでの有機農業の推進に向け、化学農薬や化学肥料に代わる資材の効果検証が必要である。今年度は有機 JAS 規格に適合している肥料（液肥または固形肥料）を用いた追肥体系でトマトを栽培し、それぞれの肥料による収量や果実品質、作業性に与える影響を比較検討したので報告する。

3. 14:20～14:40 研究員 田口裕允

【課題名】ハウレンソウ土壌病害対策における化学農薬使用量低減技術の検討

ハウレンソウ栽培におけるクロルピクリンによる土壌消毒処理（土壌病害対策）は、使用者への身体的負担に加えみどりの食料システム戦略で求められる化学農薬使用量の低減の観点からも、その使用について検討していく必要がある。そこで、代替剤「キルパー液剤」、並びに土壌 pH を上昇させる資材による防除効果を検討したので報告する。

4. 14:40～15:00 主任専門研究員 安江隆浩

【課題名】リンゴ園の姿を変える可能性を秘めた「紅つるぎ」（農研機構育成）の特性

農研機構で育成された「紅つるぎ」は枝が垂直に伸びやすいカラムナー性を有し、主要品種並に食味が良い。このコンパクトな樹姿を活かし、超密植栽培との組み合わせにより高収量で省力的な次世代のリンゴ栽培が期待されている。今回は当所における栽培特性等について紹介する。

15:00～15:10 <休 憩>

5. 15:10～15:30 研究員 小島和樹

【課題名】もち米「たかやまもち」の品質向上技術の確立

県育成もち米品種「たかやまもち」では、労働力不足が問題となるなか、省力化のため全量基肥肥料の利用が拡大している。しかし、近年の気候変動の影響により、溶出パターンと生育が合致せず品質の低下が懸念されている。そこで、新たな全量基肥肥料について検討を行ったので報告する。

6. 15:30～15:50 飛騨農林事務所農業普及課 川部満紀

【課題名】スマート農業技術を活用した飛騨の新たな米づくりの実現

飛騨市の玄の子地区では、区画を大規模化する整備が実施された。この大型区画を活かすため、地域の中心的経営体が国の「戦略的スマート農業技術の実証・実装事業」に取り組んだ。農業普及課は、この事業を推進するため、スマート農業技術の活用支援や効果確認などを行っており、今回は、その内容を報告する。

15:50～16:20 速報紹介・総合討議